

千光寺の縁起

曹洞宗願翁山千光寺は、江戸時代末期に創建された寺院です。創建のきっかけは、現任職隆三の曾祖父が当時資産家だった養子先の別荘地を「寺院として寄進する」との約束により、養子先から妻子を連れて出ることを認められ、曾祖母と二人で千光寺(当時は秋葉堂)後、千光堂を経て現寺院名)の開基となったことによりです。

開基となった曾祖父にはやがて並々ならぬ信仰心が芽生え、創建から間もなくして、戦国時代より織田家との所縁が深かった現・亀嶽林萬松寺の三十三世住職 願堂鑑法大和尚を開山に招聘して、千光堂と改称し、自らは開基として俊翁大機上座、曾祖母も同じく瑞室賢章尼上座の仏名を名乗り、仏道を全うすることを誓いました。さらに加えて、御開山の威徳もあり、当時の千光堂には地域の多くの善男善女が信徒として帰依していたとの記録も残っています。

その後、紆余曲折を経て、先の第二次大戦により伽藍が焼失。戦後の焼け野原にわずかに残った資材をかき集めて小さな堂宇を建て、細々ながら再建したものの、やがて当時の檀信徒は散逸という状況に追いやられました。

そして、やっと今から十年程前に、現任職及び副住職を目指す徒弟が改めて開基の遺志を継ぐべく、山号も御開山と開基の仏名を一字ずつ取って、願翁山千光寺と改め、再興への道を歩み始めたばかりという、「まちなかの小さなお寺」です。

御本尊は「延命地藏菩薩」、鎮守としては創建時に遠州袋井の秋葉絵本殿可睡齋から御分霊をいただいた「秋葉三尺坊大権現」をお祀りしています。御本尊や鎮守、その他の脇持仏等について、また、現・千光寺が取り組んでいる再興への様々な取り組みなどについては、この左頁にご紹介しております。

千光寺の再興にご協力をいただけた方がいらつしやいました。なら、何がしかのご支援・ご助力を賜りますれば、誠にありがたく存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

曹洞宗願翁山千光寺住職 鈴木隆三
徒弟 貴雅 九拜

千光寺の仏像

◆千光延命地藏菩薩

本尊は、延命地藏尊。新たに授かった命を加護し、長寿を願う衆生の思いを叶えてくださる地藏菩薩です。千光を放つ「半跏思惟」の金仏像で、衆生をいかにして救おうかといつも思惟されており、時あらば左手の錫杖を突き、素早く立ち上って救えるよう、珍しい立膝の御姿をされています。



◆秋葉三尺坊大権現

千三百年以上の歴史を持つ秋葉信仰。三尺坊様は実在のお方で、四歳(七歳とも)の時に出家され、その後、日本各地で厳しい修行を積まれました。特に、越後の蔵王権現では最も厳しい坊と言われた「三尺坊」での二十一日に及ぶ壮絶なご修行により、「火を自由に操られるお方を体得」され、以来、「火伏の権現様」として全国から篤い信仰を集めています。



◆巻物観音坐像

観音像の中でも、見かけることは珍しい、「巻物観音」と呼ばれる聖観世音菩薩の坐像です。左手に持つ「巻物」は、お釈迦様の教えを説いた「経巻」の一巻で、「観音の名を呼べば、どんな苦しみからもたちまちに救われる」と説いた「観音経(妙法蓮華経観世音菩薩普門品)」です。右後ろの止まり木の鳥は、「観音様の教えをどこにでもいち早く伝える」という役目の象徴とされています。



◆十六羅漢像

一尺ほどの厨子に祀られている陶器製の「十六羅漢像」は、創建間もなく信者から寄進されたものと伝わります。「羅漢」とは阿羅漢とも呼ばれる「悟りを開いて尊敬され、供養される十六人の修行者」のことで、寺院では楼門の上階などに祀られていることが多いようです。当寺の十六羅漢は、震災などにより三体を遺失したようで、現在十三体の「十三羅漢」となっています。



◆弘法大師空海

日本真言宗の開祖である「弘法大師」が、縁あって当寺に祀られることになったものです。この大師像は、明治時代の後期に名古屋の覚王山日泰寺周辺に開かれた八十八ヶ所霊場の札所に祀られていた乾漆像一尊を何らかの理由により譲り受けたものと伝わります。



●千光寺こぼれ話

「弘法大師」が御遷座されてからしばらくして、当時の信徒の一人が大病に罹り、方々の医者も手を挙げるような状態であったといひます。そこで一族の一人が真言宗本山の高野山に赴き、一心に祈って金箔の護符をいただいて帰り、その金箔を少し削って患者に飲ませたところ、奇跡的に回復したのだそうで、まさに弘法大師の靈験あらたかな御利益を目の当たりにしたということでした。

千光寺の御朱印

神社仏閣への参拝記念として、またお守りの意味を込めて、このことろ「御朱印集め」がブームになっています。

寺院の御朱印は、本来、「願いを込めて書き溜めた写経」を納経した証として寺院が認めた書状でしたが、そこに朱印の寺院名などを押しすることが基となつていす。

千光寺でも、本尊「延命地藏菩薩」と鎮守「秋葉三尺坊大権現」の御朱印を、さらに寺の年中行事である、毎年四月十八日の「巻物観音例祭」や八月二十四日の「地藏盆」、十二月十六日の「火防大祭」の際には特別限定御朱印も授与致します。

サイズは、通常の御朱印帳(ページ分のB6判縦サイズ(御朱印帳に書き込みも可))に加えて、色彩豊かな見開き二ページ分のB5版横サイズのもの(参拝日のみ書き込みして授与)も用意しております。

※詳しくは公式ホームページをご覧ください。

御朱印を投稿してね!



Instagram
@senkouji.nagoya
#千光寺をつけてね!

Omairi
spots/83697

「ほぐしや千光堂」のご案内

永平寺御開山道元禪師は、中国天童山の如浄禪師の元で悟りをお開きになった時、「身心脱落、脱落身心」の言葉を残されました。「悟」ことは一朝一夕でできることではありませんが、少なくとも「身心脱落」を願うのであれば、まず身体と心のバランスを整えることから始まる、と言えます。曹洞宗のお寺では、坐禅をする上での基本として「調身・調息・調心」を重視し、坐る前にまず「身体と呼吸と心を調えよう」と訴えます。しかし現代人は、「ビジネス環境やライフスタイルの違い」からストレスや不眠などに悩まされ、多くの方が「坐る以前の問題」として、身体の変調を訴えています。そこで、当寺の運営に新しい方向性を打ち出している衲子貴雅は、自らの整体師としての経験も踏まえて、「理想的な調身が図れる施術法」を会得し、寺院内に「調身施設」の「ほぐしや千光堂」を付設。まず、坐禅の前に「身体を正常化すること」へと注力すること致しました。身体の変調を感じている方には、一度お訪ねになられてはいかがでしょうか。

ほぐしや千光堂 検索